

流れるままに(18)

＝弱さに生きる＝

聖書: IIコリント12:10; IIコリント13:4;ヘブル4:15-16;5:2;7:28

- ①神の価値観は人の逆説(cf.マタイ5章):人は力や能力を求めるが、神は無力さ、その究極の死を求める→神ご自身が力となり、能力となるため(Iコリント1:30)
- ②キリストの十字架はキリストの弱さのゆえ(IIコリント13:4;ルカ23:46)→御霊が復活させた(ローマ8:11);神の力によって生きている(2コリント13:4)
- ③弱さは神の憐れみに与り(ヘブル4:15;5:2)、神の大能に入る道(マタイ9:36)
- ④主イエスは完全な弱さ(=死)を経て、永遠にメルキゼデク系の大祭司としてまっとうされた(ヘブル7:28)→大胆にはばかりことなく恵みの座に近づく(ヘブル4:16)

●暗証聖句●

キリストは、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力によって生きておられるのです。わたしたちもキリストに結ばれた者として弱い者ですが、しかし、あなたがたに対しては、神の力によってキリストと共に生きています。

この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

大祭司は、自分自身も弱さを身にまとっているのです、無知な人、迷っている人を思いやることのできるのです。

また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分自身のためにも、罪の贖いのために供え物を献げねばなりません。

律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。